

医学研究センター

医学研究センター

松下 祥
(センター長)

医学研究センターは以下の7部門で構成され、それぞれが異なる視点から研究を支援している。

- 1) 研究支援管理部門 : 外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 2) 知財戦略研究推進部門 : 知的財産の管理やTLO活動に関わる。
- 3) 共同利用施設運営部門 : 各種共同利用施設の運営に関わる。
- 4) 安全管理部門 : RI, DNA, 薬物, 環境, 動物, 感染など, 研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェロシップ部門 : 大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究主任部門 : 基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 7) 研究評価部門 : 研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

全キャンパス両学部から選出された構成員からなる運営会議を月に1度開催し、活動している。部門内での会議も適宜開催されている。

先進的な大学ではすでに整備が始まっているところの教職員が一体となった「リサーチアドミニストレーション」体制を検討している。このために、平成25年4月2日に開催された私立医科大学協会主催の研究体制検討委員会に参加し、慶応義塾大学における体制整備の情報を得た。

また、大学として、医学生に対する倫理に関する講義はあるが、卒業後の研究者に対しての教育が不十分であるため、全学として取り組む体制を整備する。具体的には、文科省の主導プロジェクトで、研究者育成のための行動規範教育を標準化し教育システムをe-learningとして全国展開されるという、「CITI Japanプロジェクト」への参加を平成26年度から予定している。このため、平成25年3月15日に開催されたCITI Japanプロジェクトセミナーに参加した。

論文、学会発表などの情報は研究業績データベースに個人が入力したデータをベースとしてまとめている。この情報の管理(質問への対応やパスワードの発行など)には医学研究センター研究評価部門が当たっている。特許に関する情報は医学研究センター知財戦略研究推進部門が一元的に把握している。特許を含む知財活動状況については、本学は私立医科大学中第4位(単科系ではトップ)という高いレベルを示している。国公立大学すべての中でも17位につけている。

文科省科研費の申請件数を増やし、資金獲得を振興するため、平成24年度から学内グラントの申請システムを変更した。具体的には、申請資格者を「前年度の文科省科研費に応募したが採択されなかった者」とし、日本学術振興会・文科省での審査結果も学内評価の参考にして学内グラントを配分している。平成24年度の文科省科研費に申請したが不採択となり、平成24年度に学内グラントを得たものは22名である。このうち4名が平成25(2013)年度の文科省科研費に採択された。平成21年度から5年連続で本学の文科省科研費の採択数・交付額は増加を続けている。